



クロスワードタイム

弥生3月です。そろそろ出勤の道すがら、春の兆しを見つけられるかもしれませんね。
二重枠の言葉を並び替えると答えが出来ます。答え、郵便番号、住所、氏名、加盟組合、Compassの感想を記入し、はがきかメールでご応募ください。正解者の中から抽選で30名様にクオカードを贈呈します。

■×切:4月22日(金) ■宛先:mail → info@nikkenkyo.jp はがき → 〒169-0075 新宿区高田馬場1-31-16 守山ビル3F 日建協クロスワード係

ヒント:15周年を迎えます。
「東京○○…」。

1	2	3	4	5	6	7		8
9								10
11			12			13	14	
		15			16			
17	18			19				20
21			22					23
		24					25	
26	27			28				
	29			30				31
32							33	

ヨコのカギ

- 太陽が月によって完全におおいかくされる現象。
- 1920~30年代以前の古い型の自動車で、現在も運転して走ることのできる車のこと。
- 他のものと異なる点。モノとモノとの違い。
- 「〇遠」、「〇住」、「〇久」。
- 元素記号Fe、原子番号26。
- ものを言う回数。ことばかす。
- 退屈をまぎらわすこと。また、その手段。ひまつぶし。
- 病気やケガの処置を施すこと。
- 物の形や色などがはっきりせず、ぼやけて見えること。
- 言葉が示す内容。
- 《どのように…するか、の意》やり方。方法。特に、実用的な方面での方法や技術。
- 英語のアルファベットの最初の字。
- 雪どけの水。
- 野球の「ヒット」を日本語で言う?
- 攻撃目標の城などに火矢を打ち込んだり、火を放ちながら敵陣を攻略すること。
- 足と拳を用いて攻撃する、韓国の格闘技。
- 映画を観る常設の施設。
- 公衆電話をかけるときに使う、磁気カードの略。
- 沿岸海底にすむ魚。全長約60センチ、体は菱形で扁平、背面は黒褐色に大小の円形の淡色斑紋がある。一般にカスベとも言います。
- 円盤。円板。また、レコード。音盤。

タテのカギ

- 電車・列車が一つ一つの駅に停車すること。
- 人に用件を頼むこと。
- 中世ヨーロッパの騎馬の戦士。
- 「スケジュール」を日本語で言うと?
- セミの一種で、晩夏から秋にかけて現れ、その鳴き声が特徴的。
- 詩を作る人。詩人。
- イギリス原産の小型犬の一品種。「〇〇〇〇〇〇・テリア」。
- 身ぶりなどで知らせること。
- 建築などで、木目を逆に用いた材。
- 土地の位置や形状が、物事をするのに都合よくできていること。「〇〇〇を活かす」
- 演劇・映画などで、乱闘・捕り物・斬り合いなどの演技。
- 衣服の丈が短くて、手足やひざが現れていること。
- 糸、縄、針金などで目をあらく編んだもの。
- 大勢の人を導く役割を担う人。グループの中心的存在。
- 履物をまちがえて履くこと。
- 終わりのないさま。無限。
- 意義のあること。意味・価値があると考えられること。
- 物事が落ち着いていて、激しい変動がないこと。
- 不思議なめぐり合わせの縁。「合縁〇〇」。
- 「上位」の対義語は?

Vol.808クロスワード 正解と当選

イ	タ	ツ	キ	カ	マ	ボ	コ	セ
シ	イ	ク	■	タ	ン	コ	ウ	ボン
ワ	ラ	シ	ベ	チ	ヨ	ウ	ジ	ヤ
リ	ン	ジ	■	ウ	■	ヨ	ツ	ト
ザ	■	ロ	■	ミ	シ	ユ	ウ	キン
ク	ロ	ウ	ト	■	ユ	リ	シ	ーズ
ラ	マ	■	チ	ヨ	ウ	カ	ン	ラ
■	ネ	ゴ	コ	チ	■	モ	■	サ
ガ	ス	イ	ト	■	ウ	メ	ア	ワセ
カ	ク	シ	バ	シ	ヨ	■	シ	ラキ

答えは

「伊勢志摩サミット(イセシマサミット)」でした。

多数のご応募ありがとうございました。
次の当選者の方々にクオカードをお送りします。

- 庄司徹夫、並木三千夫、新田純子(青木あすなる)
小野寺豪俊、高村竜洋、藤川聡樹、山口典子(アサヌマ)
田口茂樹、吉岡 健、谷澤ちか子(安藤ハザマ)、井上武史、西川裕子(鴻池)
伊藤規子(五洋)、小出啓剛、中嶋智樹(佐藤)、麻生智子(鉄建)
相澤恵理子(東洋)、河田政之、西村武明、渡邊 実(戸田)
勝山義史、平 将大、仲井美穂、萩原由美子(飛鳥)
久住慎也、大久保美麻(西松)、小林慶輝(JS)、泉澤志保(野村)
網岡直美(松村)、二宮 健(三井住友)

<敬称略>

編集後記

3月5日は二十四節気の「啓蟄(けいちつ)」です。啓蟄とは「冬籠りの虫が地中から這い出る時期」とされており、本格的な春が始まります。春の訪れを告げる3月号では、春季労使交渉に向けた賃金特集を掲載しています。私たちが安心して働き続けることができる賃金水準に向けて賃金交渉に取り組んでいきましょう。

また、今号では国際産別組織BWIの紹介と、海外特集を掲載しています。近時、多くの企業が海外事業を拡大させており、海外で働く組合員も増えてきています。海外で働いている方々からは、新しいことにチャレンジができる環境や、培ってきた技術で世界の発展に寄与できることに強いやりがいを感じるという声が聞かれます。海外特集では、日本には無いものと出会う魅力について、海外で働くみなさんの協力のもとお伝えしました。

機関誌「Compass」は、引き続き加盟組合のみなさんに向けてさまざまな情報を発信していきます。みなさんから頂いた意見をもとに、Compassをより良いものにしていきますので、忌憚りの無いご意見をお待ちしております。

もや 筋い

趣味は「読書」。プロフィールなどにこう書く人は多いのではないだろうか。人によって程度の差はあるだろう。暇さえあれば本を読む人もいれば、趣味らしい趣味も無く、「読書」と書く人もいろいろ。確か、自分が入社試験の時に出した履歴書にも趣味は「読書」と書いたのではなかっただろうか。後者の意味で。時代は巡り入社〇〇年経った今、改めて趣味を聞かれたら、また「読書」と書くだろう。ただ、少し意味合いが変わってきた。4年ほど前、半年間単身赴任をしていた時期に、目覚めてしまったのだ。読書に。最初は電車通勤の暇つぶしのつもりが、通勤時間のみならず、家に帰れば、休みなれば、暇さえあれば、読書に時間を費やすようになってしまった。読むのはもっぱら小説だ。最初は駅中のキオスクなどで新品を購入していたが、昔に比べて文庫本価格は高騰(?)しており、結構堪えるようになってきた。そんな時、世にはブックオフという便利な店があることを発見し、そこへ替替

することにした。半年の間に読破した小説は100を下らないだろう。我ながら良いお客さんだったと思う。買っては売って、売っては買って…。さすがに単身赴任を終えて以降、読むペースは落ちたが、今でもたまに物色している。思えばいろいろな小説を読み散らかしたものだ。ずいぶんと作家の名前も覚えた。たまに自分の知っている小説がドラマ化されたりすると、誤知り顔で妻に結末を話し、冷たい視線を返されることも。

しかし、同じ読書であっても何故か参考書になると進みが悪くなる。なかなか頭に入ってこなかったり、すぐに眠くなってしまったり。小説を読むときにはあれほどワクワクしながら時間を忘れて読み進めてしまうのに。やはり面白いという感覚が大事なのだろう。誰か参考書を小説仕立てで書いてくれないだろうか。涙なしには読めない『宅建業法』とか。試験中に泣いちゃうかな。(リーダホリック)